

入浴が困難である患者に対する皮膚乾燥への効果 —セラミド含有の入浴剤を用いた清拭・足浴—

今倉（遠藤）みゆき^{#1} 巽香菜美^{#1} 好永尚史^{#1} 渡部真由美^{#1} 川染知代^{#1}

#1 独立行政法人 国立病院機構 徳島病院 看護部 776-8585 徳島県吉野川市鴨島町敷地 1354 番地

受付 2020.2.26 受理 2020.3.8

要旨

入浴が困難であり皮膚乾燥のある患者に対して、セラミド含有の入浴剤が皮膚の保湿に有効であるかを明らかにするために本研究に取り組んだ。入浴不可により週1回手足浴と週2回全身清拭を実施している患者2名を対象に、洗浄剤・沐浴剤を用いた清潔ケアと洗浄剤・沐浴剤を用いた清潔ケアの実施後にセラミド含有の入浴剤を用いた清潔ケアを実施した。スキンチェッカーを用いて、皮膚の水分量・油分量と皮膚状態の客観的評価を行い比較し、SPSSを用いてWilcoxonの符号付順位検定にて分析を行った。結果A氏は、水分・油分量ともに実施1週目には入浴剤使用時数値は上昇し、標準的な肌となった。B氏は、水分・油分量ともに実施2週目以降入浴剤使用時数値は上昇し、うるおい肌となった。よって、セラミド含有の入浴剤を使用することで、一時的に皮膚保湿が保たれ乾燥の改善に繋がった。

キーワード：皮膚乾燥 保湿 入浴剤 セラミド

はじめに

A病棟は、筋ジストロフィー病棟でありほとんどの患者は筋力の低下により長期臥床状態であるため日常生活動作に介助が必要である。その中でも入浴介助は、清潔ケアとして患者の基本的ニーズを満たす重要な看護援助である。現在入浴が困難な患者の清潔ケアとして週2回の全身清拭と週1回の洗髪・手足浴を実施している。清拭には沐浴剤を含ませた蒸しタオル、手足浴には洗浄剤を使用しているが、患者の皮膚は乾燥し上下肢の落屑が著明である。戸倉¹⁾は、「セラミドは角層の細胞間脂質の約半分程度の量を占め、皮膚がバリア機能、保湿機能を発現するために重要な役割を果たしている。乾燥した皮膚ではセラミドが不足しがちであり、セラミドを用いたスキンケアは非常に有効である。」と述べている。そこで今回、A病棟において入浴が困難であり皮膚乾燥のある患者に対してセラミド含有の薬用入浴剤を使用することで、皮膚保湿が保たれ皮膚乾燥の改善に繋がるのではないかと考え、その効果を明らかにするため本研究に取り組んだ。

対象と方法

対象者は、終日ベッド上の入院生活において現在医師の指示により入浴不可。週に1回手足浴と週に2回全身清拭を実施している患者（家族）より同意が得られ、主治医より許可が得られた患者2名。対象者の背景は、A氏70歳代（男性）肢体型筋ジストロフィー、148cm 67.6kg、ADL全面介助であり体動不可、経鼻経管栄養インスロー（400ml/300ml/300ml）、皮膚状態は両下肢乾燥著明であり細かい鱗屑有。検査値TP 7.8g/dl・Alb 2.4g/dl。B氏50歳代（女性）進行性筋ジストロフィー、149cm 26.4kg、ADL全面介助であり体動不可、24時間高カロリー輸液エルネオパNF2号1500ml、皮膚状態はやや乾燥しており搔痒感有。検査値TP 6.7g/dl・Alb 3.5g/dl。保湿液使用。

方法は、全身清拭を毎週月曜日・木曜日、手足浴は毎週水曜日実施。手技を統一できるように清拭・足浴の方法を明示した手順を作成し、スタッフ対象に手技について勉強会を以下の通り実施した。①現在使用している洗浄剤Neo（ユニ・チャー

Correspondence to: 今倉みゆき, 独立行政法人 国立病院機構 徳島病院 看護部 776-8585 徳島県吉野川市鴨島町敷地 1354 番地 Phone: +81-88-324-2161 Fax: +81-88-324-8661 e-mail: imakura.miyuki.zw@mail.hosp.go.jp

ム)・沐浴剤スキナベープ(持田ヘルスケア株式会社)を用いて清潔ケアを6週間実施。

②お湯10ℓに対しセラミド含有の入浴剤1.5gを混ぜた45℃のお湯を準備し、現在の清潔ケア実施後にセラミド含有の入浴剤バスロマンスキンケアセラミド(アース製薬)を用いて実施測定部位に対して清潔ケアを6週間実施。清拭方法は、現在の方法での清拭実施後にセラミド含有の入浴剤入りのお湯にタオルを浸し軽く絞り、5分間両下肢の足関節から抹消を覆う。足浴方法は、現在の方法での足浴実施後セラミド含有の入浴剤入りのお湯をビニール袋へ入れ、5分間両下肢の足関節から抹消を浸す。清拭、足浴ともに実施後、乾いたタオルでおさえ拭きする。各方法で実施した後に、測定部位を両下肢内果としスキンチェッカー(生体インピーダンス測定法、株式会社デザインファクトリー)を用いて皮膚の水分量・油分量を測定。スキンチェッカーにおける皮膚状態の目安(表1)にて評価する。1週目、2週目は水曜日の手足浴実施前・実施直後・実施後1時間後、2時間後、3時後、6時間後、12時間後に測定し、翌日からは毎日9時30分に測定する。3~6週目は週に1回水曜日の足浴実施前のみ測定とする。また、新井²⁾の「ドライスキン症状の分類」を参考に独自で作成したチェックリストにおける皮膚状態の客観的評価(表2)を用いて皮膚状態の観察を行う。また、測定部位の写真を毎週水曜日清潔ケア実施前に撮影する。分析方法は、現在使用している洗浄剤・沐浴材を用いた清潔ケア、セラミド含有の入浴剤を用いた清潔ケアで得られたデータを基に皮膚の水分量・油分量および皮膚状態の客観的評価を比較する。SPSSのWilcoxonの符号付順位検定を用い分析した。有意水準は0.05とする。

倫理的配慮

対象者及び家族には、倫理審査委員会承認後、研究目的、方法、プライバシーの保護、結果の公開などについて文書及び口頭で説明を行い、研究参加への同意を確認した後、同意書に署名してもらった。研究協力は自由意思であること、研究参加承諾後も途中で辞退できること、協力が得られない場合でも不利益を被ることがないことを

説明した。また研究における費用の負担はないことを対象者及び家族に説明した。入浴剤使用中や使用後皮膚に発疹、発赤、かゆみ、刺激感などの異常が現れた場合、使用を中止し医師に報告する。

結果

研究実施前に使用する入浴剤の皮膚テストとしてパッチテストを行い、2名とも皮膚に異常はみられなかった為使用可能であると判断し研究開始とした。

【A氏水分量】図1より日数毎の経過では、洗浄・沐浴剤使用時は1日目と36日目変化はなく乾燥肌。入浴剤使用時は、1日目未測定、8日目水分量は-3。36日目は-5ではあるがやや乾燥肌と水分量は上昇。【A氏油分量】図2より日数毎の経過では、洗浄・沐浴剤使用時は1日目と36日目変化はなく乾燥肌。入浴剤使用時は、1日目未測定、36日目変化はなく乾燥肌であった。【A氏客観的評価】洗浄・沐浴材使用時と入浴剤使用時では、1日目・36日目と変化なし。

【B氏水分量】図3より日数毎の経過では、洗浄・沐浴剤使用時は22日目から水分量は低下し36日目には-5とやや乾燥肌。入浴剤使用時は、8日目から上昇し36日目には+2とうるおい肌となった。【B氏油分量】図4より日数毎の経過では、洗浄・沐浴剤使用時は1日目が+1と標準的な肌であったが36日目には-6と乾燥肌へと油分量は低下。入浴剤使用時は、1日目が-4とやや乾燥肌、36日目には+3と標準的な肌へ油分量は上昇。【B氏客観的評価】洗浄・沐浴材使用時と入浴剤使用時では、1日目・36日目と変化なし。今回2名ともWilcoxonの符号付順位検定(表3)を行った結果、洗浄・沐浴剤と入浴剤では統計的に有意な差はなかったが、平均値をみると若干ではあるが改善が見られた。

また、入浴剤使用時B氏から「いい匂いがする。」「気持ちいい。」との発言が聞かれた。

考察

【水分量】2名とも入浴剤使用直後には水分量の数値は高値を示したが、1時間後には入浴剤使用前と同値であった。日数毎の変化では、徐々にではあるが日を重ねる毎に数値はやや上昇している。これは、約

45日のサイクルで皮膚が新しく生まれかわるとされているターンオーバーの間に、セラミド含有の入浴剤を使用し実施を重ねたことにより皮膚の水分量が保たれ、数値の上昇に繋がったと考えられる。戸倉¹⁾は、「セラミドは角層の細胞間脂質の約半分程度の量を占め、皮膚がバリア機能、保湿機能を発現するために重要な役割を果たしている。乾燥した皮膚ではセラミドが不足しがちであり、セラミドを用いたスキンケアは非常に有効である。」と述べている。今回乾燥がみられる皮膚に対して、セラミド含有の入浴剤を使用したことで一時的ではあるが皮膚が保湿されたのではないかと考える。

【油分量】日数毎では入浴剤使用時の方がB氏の油分量の変化が大きく、1日目より36日目の数値が上昇した。B氏は普段より保湿剤を使用していたため皮膚が長時間保湿されている状態であったためであると考ええる。

【客観的評価】2名とも客観的評価に変化はみられなかったが、A氏に関しては細かな鱗屑は消失したことにより皮膚状態は改善できたと考える。今回、水分量・油分量・客観的評価ともに有意差はみられなかったが、平均値でみると洗浄・沐浴剤使用時より入浴剤使用時が値は改善を示していた。年齢や普段の皮膚の状態によりターンオーバーの周期は長くなるとされていることから、今回の研究においてはデータ収集期間に限界があったといえる。今後、継続して実施していくことが皮膚の保湿に対して重要であると考えられる。また入浴剤使用中には、B氏から「気持ちいい、いい匂い。」との発言が聞かれた。「香り」はQOLを向上させる有効な手段とされており、今回皮膚乾燥に対して入浴剤を選択したことで清潔ケアに対する基本的ニーズを少しでも満たすことに繋がったと考える。

文 献

1) 戸倉 新樹：皮膚の乾燥によるかゆみとスキンケア, 花王プロフェッショナル・サービス株式会社, 花王ハイジンスルーション No. 10, 17, 2016

No.11

表 1. スキンチェッカーにおける皮膚状態の目安

	乾燥肌	やや乾燥肌	標準的な肌	うるおい肌 (油性肌)
水分量	-7~-6	-5~-3	-2~+1	+2~+4
油分量	-7~-6	-5~-4	-3~+3	+4

表 2. 皮膚状態の客観的評価

皮膚状態の 客観的評価	5点：乾燥が全くみられない皮膚
	4点：ざらざら感を呈する皮膚
	3点：痂皮様の落屑、ざらざら感を呈する皮膚
	2点：細かい鱗屑、ざらざら感を呈する皮膚
	1点：細かい鱗屑、亀裂、ざらざら感を呈する皮膚

図 1. A氏 日数毎の水分量

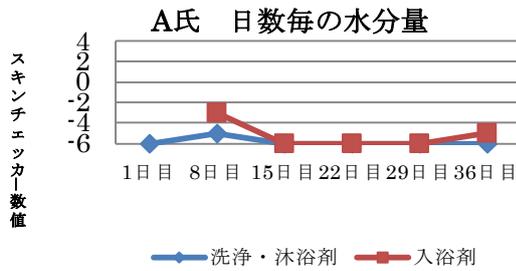


図 2. A氏 日数毎の油分量



図 3. B氏 日数毎の水分量

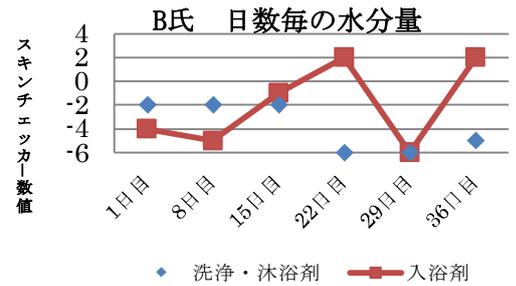


図 4. B氏 日数毎の油分量

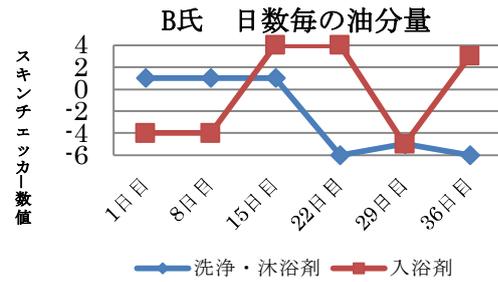


表 3. 洗淨・沐浴剤と入浴剤の平均値及び Wilcoxon の符号付順位検定の結果

	水分量		油分量		客観的評価	
	洗淨・沐浴剤	入浴剤	洗淨・沐浴剤	入浴剤	洗淨・沐浴剤	入浴剤
平均値	-4.94	-4.63	-4.75	-4.4	3.61	3.71
F 値	1.736		1.151		0.043	
F 値有意確率	0.192		0.287		0.836	
t 値	-0.658	-0.655	-0.535	-0.534	-0.291	-0.291
t 検定有意確率	0.513	0.515	0.594	0.595	0.772	0.772